

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|----------------|----|--------------|
| ○事業所名 | 放課後等デイサービス れんと | | |
| ○保護者評価実施期間 | R8年 2月 4日 | | ～ R8年 2月 20日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 27 | (回答者数) 20 |
| ○従業者評価実施期間 | R8年 2月 4日 | | ～ R8年 2月 20日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 5 | (回答者数) 5 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | R8年 3月 13日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|---|---|
| 1 | 活動内容の充実。 | 毎月の活動について、アイデアを持ち寄り職員間で意見を出し合いながら、活動が固定されないように考えて実施している。活動の流れや方法、使用する道具、担当など打合せを十分に行い、事前準備を行っている。 | 活動がどんな目的で行われているのか、個々の発達にどのような影響が出るのかなど職員ひとりひとりが共通の視点を持って支援当たっていく。 経験に関わらず使用できるアセスメントツールの作成。 |
| 2 | 職員間の情報共有・連携。 | 職員間で互いに話し合える人間関係。 会議や情報共有の場が作られている。 | 会議を行う曜日を決めて取り組み始めたので時間を意識し、端的に会議をおこない、重要な項目に時間をさけるようにしする。 送迎後の家庭からの伝達事項など、メモ取る習慣をつけ翌日の朝礼には必ず共有するなど情報の漏れがないようにする。 情報共有の優先順位を考える。 |
| 3 | 本人の自己選択の尊重。 | 意見や考え方、やり方を押し付けるのではなく、本人の気持ちを聞き、迷っている時は選択肢を提示し選ぶことで、自分で決めたという思いや行動を尊重している。 利用児によってはカードやホワイトボードを利用し、自分の気持ちを出したり、提示しやすい環境を作っている。 | 支援側が決めてしまわないようにする。 選ぶ経験の積み重ねを大切にする。 環境や情報の提供に仕方を職員間で話し合い、より良い支援に繋げる。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|--|
| 1 | 合同交流会・避難訓練の実施や理解が不十分。 安全計画・支援プログラム・マニュアルは作成されているが、家庭や職員に浸透していない。 情報発信の曖昧さ。 | 家庭には配信力と取り組みへについての情報提供力が低い。 職員には周知が行き届いていない。 多職種から入職した職の知識の習得が不十分である。 SNSの活用不足。 | 利用児や保護者への理解も更に得られるよう丁寧な説明を行っていく。作成されているマニュアルについての周知が不十分であるため、身近に感じる発生を想定した訓練や研修を実施することで理解を深める。不十分と感じている部分に焦点を当て、研修内容を見直していく。 HPやInstagramの活用。eメッセージでの連絡体制の強化。 |
| 2 | 面談の不足。 | 面談の希望を取り、希望者のみ行っていた。 ご本人や保護者の希望や現在の状況に関して、面談日程が合わない方には記入用紙をお渡しし対応していた。 | 希望者制ではなく、必ず日程を合わせて実施する。 書面のみでは聴取できない希望や状況把握を丁寧に行い、より良い支援に繋げる。 |
| 3 | 地域や地域のこどもとの交流 関係機関との連携 | 求められているニーズとして低い。 セルフプランの利用児では関係機関と情報共有できる会議等が行われないことが多い。 | 家庭の要望なども確認しながら、どうすれば実現できるかを職員間で考えていく。 地域の方には事業所について回覧板で知っていただく機会を作る意見も出ている。 会議の場を積極的に作り、関係機関に働きかけていく。 |